

# 小学生に読みきかせ —ちしきの本—

大阪市立図書館 2008

**あんな雪こんな氷 高橋喜平著・写真 講談社 22cm 39p 0000373441 11分**

雪や氷が作る不思議な形をなじみのあるものに例えることで、雪を普段見ない子どもたちにも雪の世界に入りやすいよう、工夫をこらしています。性質の紹介とともに、なぜこんな形になるのかを、ていねいに説明しています。写真も美しいです。

**おおきくなったよさるのあかちゃん さえぐさ ひろこ著 松成由起子写真**

ひさかたチャイルド 21×24cm 27p 0011610992 4分

子猿が話すことができたらこんなだろうと思わせる写真と文が、よくあっています。自然とふれあういきいきした子猿の表情が楽しく、成長の喜びが伝わってきます。猿の集団生活も、自然に知ることができます。

**おなら 長 新太著 福音館書店 25cm 27p 0000173596 3分**

おならについてわかりやすく説明されています。どうしておならが出るのか、どのくらい出るのかなど、短くやさしい文章で書かれていて小さいこどもでもよくわかります。また、単純な線で描かれたほんわかした絵が親しみやすい。からだの不思議を楽しく学ぶことができます。

**こいぬがうまれるよ ジョアンナ・コール著 ジェローム・ウェクスラー写真 つぼい いくみ訳**

福音館書店 26cm 40p 0070008762 5分

子犬が母犬からうまれおちるところから始まります。一枚一枚の写真が子犬の成長をていねいにとらえ、生命の不思議や大切さを伝えてくれます。子犬は女の子と出会い、お友達ちになっていきます。

**コウテイペンギンのおやこ 内山晟著・写真 ポプラ社 19×27cm 27p 0010182553 8分**

メスは卵を産むと、オスに卵をあずけ、数百キロ先の海まで雛に与える餌を捜しにいきます。オスは、雛がかえるまでの約2ヶ月、卵を自分の足の上に乗せて、寒さと飢えに耐えながら、ただひたすら暖めます。懸命に育て、見守る親の愛情が写真から伝わってきます。

**しずくのぼうけん マリア・テルリコフスカ著 ボフダン・ブテンコ絵 うちだ りさこ訳**

福音館書店 21×23cm 24p 0080003951 6分

旅に出たしずくは、町から空へ、そして地面へ、それから川へと冒険を続けます。物語を読み進めるうちに、小さなしずくが雨になったり氷になったりと、自然のしくみや水の役割がわかってきます。東欧らしい落ち着いたかわいい絵で、文章が手書きの文字なのも親しみやすい。

**たんぼぼ 平山和子著・絵 北村四郎監修 福音館書店 26cm 23p 0000173557 8分**

身近な植物たんぼぼの強さの秘密、生きるためにどんな工夫をしているのか、その不思議さにおどろかされます。土の中の根っこの様子は圧巻。4ページにわたって知ることができます。絵は写実的でわかりやすく描かれています。

**ちのはなし 堀内誠一著・絵 福音館書店 26cm 23p 0070020145 6分**

ころんですりむいたひざから、血がでます。そして、いつのまにかかさぶたができてきます。からだをめぐる血の働きが、太い線のタッチの絵で描かれ、血がどんなに大切な働きをしているかがわかり、やさしくしめくられています。

**はっぱ -しぜんとあそぼう- 水野政雄著 小学館 29cm 25p 0011064292 3分**

葉っぱの形はさまざまで、色とりどりです。身近にあるはっぱをつかって、絵を描くように色んなものを作ってみましょう。ひと工夫することで、生き生きと動き出すはっぱたちの写真がいっぱい。一緒に登場する「木ぼっくり」人形も、表情豊かで魅力的です。

**はなのあなのはなし やぎゅう げんいちろう著・絵 福音館書店 26cm 27p 0000173564 6分**

はなのあなを自分とおじいちゃんので比べたり、動物のはなのあなと見比べたり、鼻毛のしくみ、はなづまりのこと。はなの中はどんなふうになっているのか、なんのためにあるのかなど、大切なことをわかりやすい絵で楽しく知ることができます。

**ピーナッツなんきんまめらっかせい こうや すすむ著 中島睦子絵**

福音館書店 26cm 27p 0000342085 5分

これらは全部同じ豆なのです。生の「らっかせい」を植えると、芽が出て成長します。取れた豆を炒ると「らっかせい」、薄皮付きなら「なんきんまめ」、皮をとって油で揚げると「ピーナッツ」です。“落花生”という名前の由来もよくわかります。

**ふゆめがっしょうだん 富成忠夫、茂木 透写真 長 新太著**

福音館書店 26cm 27p 0000436526 4分

木の芽の冬姿を24枚の写真で紹介します。笑っているのか、困っているのか。ひょっとするとふくれつつらなのかもしれません。拡大されたそれぞれの芽をじっくり眺めてみると色々な表情が見えてきます。「パッパッパッパッ」というリズムにあわせて、一緒に合唱してみませんか？

**ぼく、だんごむし 得田之久著 たかはし きよし絵 福音館書店 26cm 27p 0010959241 5分**

ちいさいちいさいだんごむしの目線からみた世界が描かれ、そのたべもの、すんでいるところ、怖い天敵のいきもの、脱皮 冬眠など一生のサイクルが描かれています。ちいさいいきものにも生活があり、その複雑さに驚かされます。

**ポットくんとミミズくん 真木文絵著 石倉ヒロユキ絵 福音館書店**

26cm 27p 0011157669 7分

かわいい表情のポットくんを主人公に、ミミズの生態や役割についてわかりやすく書かれています。ミミズが土を食べることで、土を柔らかくして水や空気をしみこみやすしたり、出したうんちが土の栄養となることなどが温かみのある絵で描かれます。

**ほら、きのこが… 越智典子著 伊沢正名写真 福音館書店 26cm 40p 0000801315 8分**

いろいろな色・形のきのこの写真が見る人を圧倒します。写真一枚一枚の完成度の高さ、バラエティに富んだいろんなアングルの写真がすばらしいです。リズムカルな言葉や簡潔な文章が、きのこの知識を深めていきます。

**まちのコウモリ 中川雄三著・写真 ポプラ社 21×26cm 35p 0011427011 7分**

まちに住むコウモリは、私たちにとって最も身近な野生の動物です。空を自由に飛びまわる、世界でたったひとつのけもの。一見こわく見える顔も、角度を変えるとちょっとかわいく見えたりもします。アブラコウモリの一年を追った写真が豊富です。

**みんなおなじでもみんなちがう 奥井一満著 得能通弘写真 小西啓介AD**

**福音館書店 26cm 28p 0011379827 2分**

生き物や植物、食べ物など同じ種類のものがたくさん、見開きのページいっぱい写真で紹介されます。文章は「みんなおなじ でも みんなちがう」が繰り返されるだけ。色が違う、模様が違うなどそれぞれの写真が鮮やかで装丁もおしゃれです。単純な絵本ですが深みが伝わってきます。

**やさいのおなか きうち かつ著・絵 福音館書店 19cm 47p 0000590611 3分**

**くだものなんだ きうち かつ著・絵 福音館書店 19cm 47p 0011409523 3分**

なんだろう？どこかで見たようなシルエットが描かれ、次のページでそれが普段見慣れている野菜や果物の断面図であることが示されます。楽しい発見と驚きを簡潔な絵で伝えます。プログラムの導入や、変化をつけるのにも役立ちます。

**やぶかのはなし 栗原 毅著 長 新太絵 福音館書店 26cm 27p 0000391034 7分**

おなかのすいたオスのやぶ蚊とそのおよめさんになったメスのやぶ蚊による真夏のある一日の暮らしが描かれています。意外な発見もあり、その生態がよくわかります。パステルを使った大胆な絵ですが、蚊の姿はしっかりと描かれています。

**リボンのかたちのふゆのせいざオリオン 八板康磨著・写真 杉浦範茂絵**

**福音館書店 26cm 27p 0000220303 3分**

冬は星を見るのに最適な季節です。街中では空が明るく、なかなか星が見えないものですが、オリオン座は大阪でもよく見える冬の星座です。普段なじみのあるリボンに例えることで、星座を探しやすくしています。

**わたし 谷川俊太郎著 長 新太絵 福音館書店 25cm 27p 0000173587 4分**

「わたし」を「わたし」以外のひとからみたら、どうなるかしら？ 自分の存在を周りから見ると色々な「わたし」がいます。お母さんから宇宙人、はたまたキリンまで登場です。繰り返しを重ねることで、ますます浮き彫りになる「わたし」をお楽しみください。

